

第4回林木育種技術戦略委員会議事要旨

1. 日時：平成27年2月9日（月）13:30～15:30

2. 場所：東京国際フォーラム

3. 議題：今後の高速育種運営会議のあり方について

特定母樹の普及のための今後の検討課題

気象害抵抗性育種事業による雪害抵抗性候補木等の雪害抵抗性検定林における特性について

4. 出席者からの主な発言内容

・今日的には、林業用に優良な種苗を供給するということと、国民の花粉症への配慮とのバランスが特に重要である。今回、第二世代の種苗の普及対象としての生産集団をエリートツリーの中からより花粉の少ない特定母樹に絞り、エリートツリー等を育種集団とされたことは、極めて良い方法である。また、エリートツリーの中からも花粉症対策品種の開発を進めてほしい。

・地域によっては花粉症対策品種の需要が大きいので、将来的に普及を進めるためにも、花粉症対策品種からも特定母樹を選んでほしい。

・育種事業を進める上では、苗木生産者や造林者との情報交換や協力を積極的にしてほしい。

・成長の良さと花粉症対策の両方を備えた品種の開発は難しいのではないかと。特定母樹だけでなく花粉症対策品種の開発・普及にも力を入れてほしい。

・エリートツリーの中で優れたものが、特定母樹として間伐等特措法の下で普及されていくこととなり、生産集団が脚光を浴びる中で、その土台となる育種集団の構築は、大切な育種の本流でもあり、着実に進めてほしい。

・育種の流れということでは、現在、第二世代が出始めたところであるが、第三世代以降の長期的な育種の方向性についても検討していく必要がある。

・良いものを選抜したからこそ、今後の普及を進めるためには生産種苗の品質向上への取り組みを関係機関と連携して進めてほしい。

・良い品種を開発して、その原種苗を配布するだけでなく、その先の育苗や育林についても積極的に情報収集をした上で提供をしていくという試みは、効率的な林業経営が重視さ

れている今の時代にも合い、良いことだと思う。施業について研究している部署等、各方面と協力して進めていってほしい。